

消費増税採決

8区・田中氏は反対

「強行、民意への造反」

26日に衆院本会議で可決した消費増税法案について、県内12の小選挙区選出の衆院議員のうち、賛成票を投じたのは10人、反対票は1人、欠席は1人だった。

小選挙区 賛成10、欠席1 他議員は

反対したのは8区選出で
新党日本の田中康夫氏。田
中氏は「社会保障と税の一
体改革と言っていたのに、
消費税率だけを上げる単体
改悪になっている。世論調
査でも民意の大半は今国会
で採決しなくても良いと
しており、民意に『造反』
しているのは今日の採決を
強行した人たちだ」と批判
した。
欠席したのは5区選出で

民主の梶原康弘氏。取材に
対し、ファクスで回答し
た。負担増の前に歳出削減
や景気対策をすべきだとい
う党内の声がかくみ取られな
かったとして、「政治が財
務省に負けたという印象を
強く抱いた」と指摘。「強
引に押し切る、(党内の)

非民主的な政策決定」や
「マニフェストを堅持する
意思が執行部にあるのか懸
念を抱いた」ことも賛成し

なかった理由として挙げ
た。一方で梶原氏は「反対
は党の分裂を意味し、消費
税というワンイシュー(一
つの争点)で党を分裂させ
ることは政権交代に向けら
れた国民の期待を裏切るも
のだ」として、離党しない
考えを示した。

そのほかの民主8議員、
自民1議員、無所属1議員
は賛成票を投じた。

(井石栄司)